

平成 21 年度・第 2 回最終処分場検討委員会  
(要点議事録)

日時：平成 21 年 7 月 27 日(月) 19 時 00 分～21 時 15 分

場所：穂高広域施設組合 会議室

出席者

委員：福島委員長、降旗副委員長、吉田委員、加藤委員、尾日向委員、伊藤委員、井關委員、山田委員、丸山委員、高山委員、新井委員、平田委員、岩垂委員、今井委員

事務局：組合事務局長、事務局次長、環境第一係長、環境第二係長、安曇野市、八千代エンジニアリング(株)

.....

## 1 開会

## 2 あいさつ(委員長)

## 3 前回議事録の確認

- ・ 要点議事録についてはホームページ上に公開する。

## 4 現地調査の報告

- ・ 本日 7 月 27 日(月)の午前と午後実施した候補地 3 箇所の現地調査について、参加委員より報告を行った。なお、翌日 7 月 28 日(火)、八千代エンジニアリング(株)により詳細調査を実施するため、この結果を組み込んで、今後議論する。

[現地調査同行委員の意見]

(堀金候補地)

- ・ 堀金候補地は、おそらく圃場制度により、かなり地形の改変が行われており、本来の天然の状態の状況がちょっと判別しづらい等の問題がありました。けれども、これまで指摘されてきた問題点については、それほど大きな問題はないように思います。ただ、近くに流れる鳴沢川の流路について、若干わからない部分が幾つかあり、場合によっては、増水地あるいは洪水地のハザードマップなどを考慮する必要があるのではないかと思います。早い話、これまでの洪水などの歴史、被害状況を考慮した上で評価する必要があるのではないかと感じております。地盤状況は、外から見ただけですので、十分わかりませんが、それほど特段の問題を感じることはございませんでした。

(豊科候補地)

- ・ 豊科候補地は、現在、土取り場として稼働している状況なんですが、その中や周辺の地質と地すべりの状況というのを含めて観察しました。地盤は実際あった大きな

山を削り取って平坦地をつくっているという意味で、非常に良好であるという印象を受けてます。それから、周辺の土石流とか地すべりについては、植生があって、十分観察したわけではありませんが、少なくとも集中豪雨とか、その程度の水量の増加に伴って、すぐに何か起こるといった状況ではないように感じております。ただ、幾つか心配な点としては、今日配付になった資料のほうに幾つか書かれていますけれども、地すべり移動塊というか、地すべりの堆積物が幾つか沢の中にとどまっているような状況が観察されます。それから、現地に来ていただいた地元区長さんからのお話でも、幾つか崩壊している場所があるというような話を伺いましたので、これの影響については、多少考える必要があるのではないかと感じております。

(明科候補地)

- 明科候補地は、現在、土取り場として稼働しているところなのですが、地盤状況そのものは大きな問題はありません。ただ、本来かなり複雑な地質状況のもとでつくられた岩盤で、例えば、豊科に比べますと、若干岩盤の強度としては劣るかなという印象です。それから周辺の地すべりとか崩壊については、既に地すべり危険箇所周辺が指定されているのですが、幸いというか、そういう意味で選んだんですけど、予定地点そのものは地すべり指定箇所からは外れております。ただ、周辺は地すべりの危険があるというのは歴然とした事実でありまして、おそらく地すべりを誘発するような状況が内在している可能性が高いと思います。そういう意味で、他の地域に比べて若干注意が必要ということで、若干低い評価をせざるを得ないのかもしれないかもしれません。ただ、この低い評価というのが、立地条件を本質的に脅かすような、立地条件について問題を投げかけるようなものであるようには思えませんでした。これは施工方法によって解決されるであろうというレベルのものであります。

(豊科候補地の化石について)

- 今まで世界で見つかっているオットセイの化石は700万年前のものですが、あそこで発見されたものは1,300万年前のものということで、アシカの化石としては随分古いものが見つかりました。だから、化石のほうから言えば重要な場所です。ただし、地層があって、どの層からその化石が出てきたということがわかれば、その層を破壊しないようにということになるのですが、あの場合は、もう採石場で全部崩しちゃった中から、たまたま厚さ3センチ、長さ7センチの、まだ若いメスの下左顎が出ただけです。だから貴重なことは貴重なのですが、それで、あの場所を保護して、将来同じようなものが見つかる可能性はほとんどないと思われる。

化石発見地点は砕石場の最奥部（最北部）で、現時点での計画案における最終処分場の予定地は、入り口付近（南部）なので化石産出地点にはかからない。

## 5 議題

(1) 補足調査（文献調査）について

- 八千代エンジニアリング（株）より、文献調査の取りまとめ結果について説明を行った。

(明科候補地の文献調査結果)

- 明科候補地の活断層は、直接候補地にかかるものはなく、候補地の左手側2～3km

ほど離れているところに松本盆地東縁断層というものがあります。

- ・ 空中写真で地すべりの分布を見ると、候補地そのものには、先ほど委員の先生が言われたように、候補地そのものは地すべり地ではありません。ただ、北側の斜面と南側の斜面に、小さな地すべり地が見られます。
- ・ 土砂災害危険箇所については、災害危険箇所というのではなく、北側と南側の沢沿いに土石流危険渓流というものが設定されています。この尾根自体は、もともとは犀川の段丘面であったというふうに考えられますので、尾根自体は非常に安定しているのではないかと思います。

#### (豊科候補地の文献調査結果)

- ・ 豊科候補地そのものに活断層がかかってくるものはありません。ただ、候補地から 800m ほど西に離れている山地と平野の境に松本盆地東縁断層というものが分布しています。
- ・ 空中写真による地すべりの分布は、候補地の北側の山腹、西側の山腹に地すべり移動塊と推定されるものが点々と分布しているというような状況です。
- ・ 土砂災害の危険箇所につきましては、候補地自体、谷側には急傾斜地の危険箇所が若干かかってくるんですが、直接危険箇所になっているというような状況はありません。

#### (堀金候補地の文献調査結果)

- ・ 堀金候補地の活断層は、西側大体 400m ぐらいに確実度Ⅱという活断層が引かれています。ただ、これ自体は『日本の活断層』で示されているだけで、それ以外には一切示されていないので、ここに活断層が存在するという根拠は乏しいと考えます。それよりさらに西のほう 2.5km ぐらいのところには、常念岳の断層があり、これはどの文献でも載っておりますので、ここには確実にある断層だというような状況です。
  - この「確実度Ⅱ」と書いている断層は、北側の烏川のところで、一応我々は存在を確認しています。ただ、これが南側のほうに、ここまで延びるかということは分かりません。また、存在を確認していますが、近年になって活動した痕跡はあまりないです。そういう意味では、活断層であるのは確かですが、延長がここまで来るかどうか分からないという点と、それから活動度がかなり低そうであるという印象があります（委員意見）。
- ・ 空中写真による地すべりの分布は、この地域は平地ですので、直接地すべりはありませんが、その西側の斜面には、地すべり移動塊と推定されるようなものが分布しています。
- ・ 土石流危険箇所についても、直接にはかかっていませんが、山地から出てくる溪流等々には土石流の危険渓流というものが設定されています。

#### (浅層地震に関する参考資料)

- ・ 松本盆地周辺で被害が出た地震の震央分布（『新編日本の活断層』から抜粋）を見ると、それぞれの候補地の周辺では、特に大きな地震、そこが震央になっているというようなものは分布していません。北側のほうの大町とか南の松本市のさらに南側には地震被害を起こした震央の分布というものがありますが、今回の候補

地周辺には特にないというような状況です。

(2) 最終処分場選定に際しての候補地評価表について

- ・ 他団体での候補地比較表における評価項目の内、本最終処分場評価表に未対応の項目（跡地利用、漁業権、埋蔵文化財、電源確保）について、評価表に入れるかどうかの議論を行った。
  - 施設の電源確保の難易性は、評価項目の取付道路の評価と同等となると考えられるため、特に評価項目には含めない。
  - 埋蔵文化財については、明科候補地が包蔵地として指定されてはいるが、既に土取りを行っており、基本的に無いということで許可を得ている。また、豊科候補地のアシカの化石については、埋蔵文化財では無いものの、文化的な価値はあると考えられるが、その地層も確認出来ない。以上のことから、埋蔵文化財については、特に対象とするものはないと判断できるため、評価項目には含めない。
  - 漁業権については、どの候補地でも条件は同じであるため、評価項目には含めない。
  - 跡地利用性については、基本的に、今後地元要望を加味しながら決定していくもので、どの候補地でも条件はほぼ同じと考えられるため、評価項目には含めない。

(3) 候補地追加の要望について

- ・ 住民説明会にて複数の意見が出された「安曇野市新庁舎との併設」について議論し、候補地に追加する必要はないとの意見が複数出されたが、次回検討委員会にて審議して決定する。

(4) その他

- ・ 次回委員会は、8月31日（月）の19時から開催する。

## 6 閉会

## 5 配付資料

補足調査（文献調査）結果の報告

— 了 —